



画像提供:
台湾観光局/台湾観光協会

澎湖名物の
サボテンアイス

サボテンの果肉を使用したサボテンアイスは色が鮮やかな見た目と、甘酸っぱい味わいが大人気。島を訪れたらぜひ食べておきたい。

海上に浮かぶダイナミックな光景
桶盤嶼(トンバンユー)

澎湖に点在する柱状玄武岩のなかでも随一の景観を誇る。玄武岩の柱が島を囲うように立ち並びその造形美は圧巻。馬公本島からフェリーで約10分。



ロマンチックなダブルハート
雙心石滬(シュアンシンシーフ)

石滬とは潮の干満を利用して魚を獲るための仕掛け。ハートが2つ並んだように見える形が人気を呼んでいる。引き潮時にぜひ見たい。



古き町並みが残る
二炭(ニカン)集落保存地区

現代的な家を建築することが禁止されていて、澎湖の伝統的な建築様式の家並みが残る。観光客向けに一部カフェや雑貨屋なども。



島をつなぐ澎湖最長の橋
跨海(クアハイ)大橋

白沙郷と西嶼郷をつなぐ跨海大橋は澎湖のランドマーク。夜になるとライトが灯り、まるで海上に虹がかかったような夜景が見られる。



扇形のビーチラインが美しい
隘門(アイメン)ビーチ

貝殻やサンゴでできた砂浜と透明度の高い海が美しく、観光客が多く集まる。水上アクティビティーやバーベキューも楽しめる。

澎湖島の大自然が作りだす雄大な景観も見どころのひとつ。島にはあちこちで見られる柱状の玄武岩をはじめ、鯨魚洞など古くからの言い伝えが残る奇岩が多くある。そこかしこにサボテンが自生していたり、台湾本島とは違う独特の風土を感じられる。

二炭集落保存地区をはじめとした澎湖の伝統的な家屋が残る町も

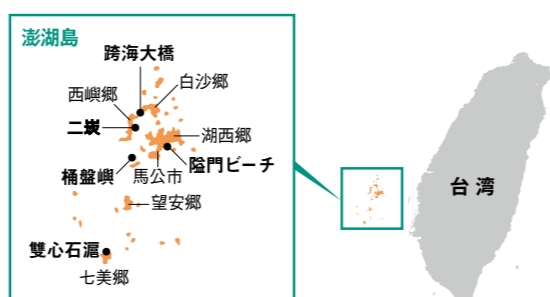
日本発着クルーズの寄港地としても人気の高い台湾に、離島があるのはご存じだろうか。台湾の南西、中国との間に浮かぶ澎湖島。知る人ぞ知るビーチリゾートとして、近年、客船の寄港も徐々に増加中だ。「飛鳥II」も2017年7月に「日本一周グランドクルーズ」での初寄港を控えている。

この澎湖島は大小100以上の島が集まった群島。島間は馬公本島エリアを除き、フェリーでの移動が基本だ。ビーチリゾートというだけあり、各島に青く透きとおった海と白砂の美しいビーチが点在する。湖西郷の隘門ビーチなど人気のスポットから、険礁嶼や澎湖ビーチなどまるでプライベートビーチのような無人島のものまで。どこも砂浜は広々としていて、観光客で混み合う心配もななくていい。

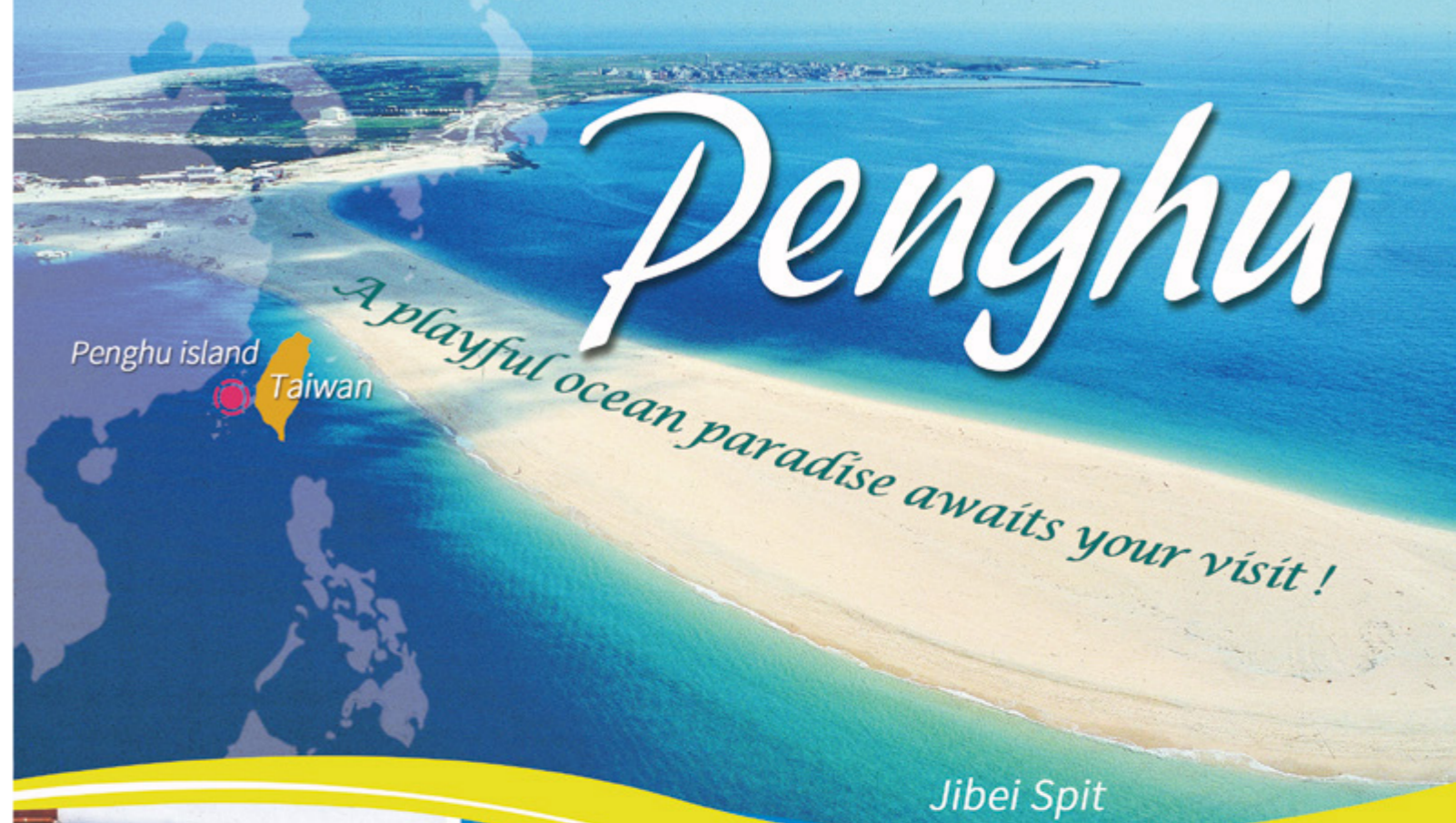
澎湖島は現在、ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッドの協力の下、世界最大22万トン型客船対応の岸壁を建造中。2018年に完成予定だ。今後ますますクルーズの寄港地として発展するであろう澎湖島に注目したい。

必見だ。サンゴを使用した壁や朱色の屋根が特徴。当時のまま時が止まったような町並みのなかをのんびり散策したい。

足を伸ばして訪れたいのが七美郷。ハートが2つ重なったように見える雙心石滬は恋愛成就のスポットとして人気が高い。同じ方角にある望安郷とセットでの島めぐりが良いだろう。



台湾港務股份有限公司
(Taiwan International Ports Corporation, Ltd.)
<http://www.twport.com.tw/en>

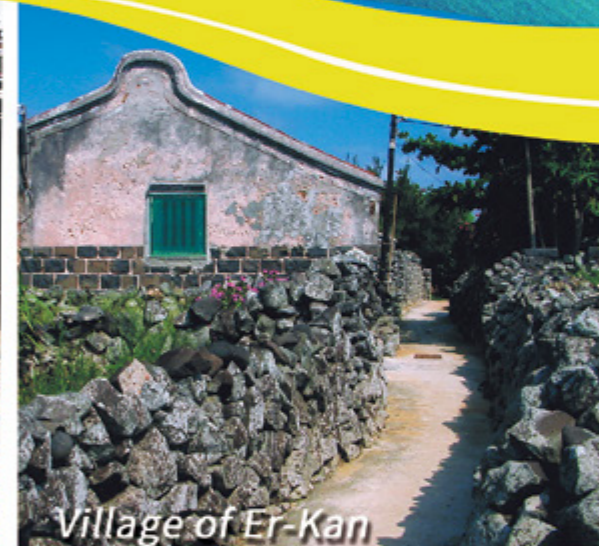


Penghu

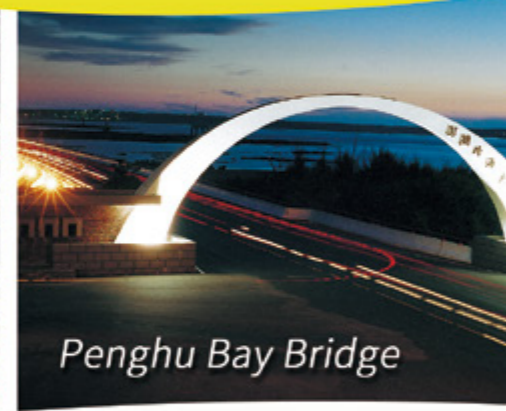
Penghu island Taiwan

A playful ocean paradise awaits your visit!

Jibei Spit



Village of Er-Kan



Penghu Bay Bridge



Daguoye Columnar Basalt